

第 3 章

計画の基本的な考え方

- 1 基本理念
- 2 基本的な考え方
- 3 施策体系

基本理念

地域福祉を推進する理想的なまちづくりの姿を、その主体となる市民と、活動を支援する市と市社協が共有できるよう、基本理念を定めます。

基 本 理 念

手をつなごう 誰もが安心していきいきと
心豊かに暮らせる 市民が主役のまちづくり

本計画では、前計画の基本理念を踏襲し、市民同士、市民と市・市社協と様々な地域福祉を担う関係者が互いに「手をつなぎ」、支援を必要とする人はもとより「誰もが」孤立してしまうことなどがなく、「安心していきいきと心豊かに暮らせるまちづくり」を市民が「主役」となって取り組んでいきます。

これからのまちづくりは、子どもから高齢者まで住民の誰もが住み慣れた地域で、心豊かに安心して暮らせるような仕組みをつくり、それを持続させていくことが求められています。そのためには、様々な生活課題について住民一人ひとりの力（自助）、住民同士の支え合い（共助）、公的な制度（公助）の連携によって解決していくことが必要となります。

特に、地域に住んでいる人が困っていることや悩んでいることに対し、住民同士が相互に理解し、協力することで解決しようとする活動や、保健・福祉・医療などのサービス提供のあり方を、住民の立場から利用しやすいように考えていくことを地域社会の役割として進めていきます。

市民と行政、さらに市社協、民間事業者、NPO法人やボランティアなどの協働のもとに、互いに支え合い、誰もが住み慣れた地域で、あたりまえに生活できるノーマライゼーションの考え方にに基づき、地域福祉を推進していきます。

ノーマライゼーションとは

障がいのある人もない人も、互いに支え合い、地域で生き生きと明るく暮らしていける社会をめざし、障がい者の自立と社会参加の促進を図るものです。(厚生労働省 HP より抜粋)

2 基本的な考え方

社会環境や基礎調査結果を踏まえ、市における地域福祉の現状や課題を整理すると、大きく3つの項目に関連づけられました。

現状と課題

- お互いさまの意識の欠如
- 地域課題への無関心、地域コミュニティの希薄化
- 障がいに対する理解不足
- 地域課題を解決する担い手や旗振り役の不足

「人」

に関すること

現状と課題

- ひとり暮らし高齢者や子育て世代などの孤立
- 子どもの居場所の減少
- 各世代・団体間がつながる場の不足

「場」

に関すること

現状と課題

- 行政における制度や窓口の複雑化
- 行政サービスでは対応困難な事案の増加
- 8050問題や買い物難民などの社会問題の増加

「体制」

に関すること

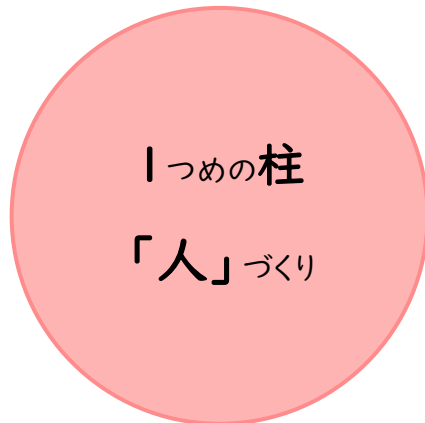
3 施策体系

本計画では、地域福祉の課題を「人」、「場」、「体制」という3つの柱に整理し、それぞれの柱から施策を体系化し、課題の解決を図っていきます。

基本理念

手をつなごう 誰もが安心していきいきと心豊かに暮らせる 市民が主役のまちづくり

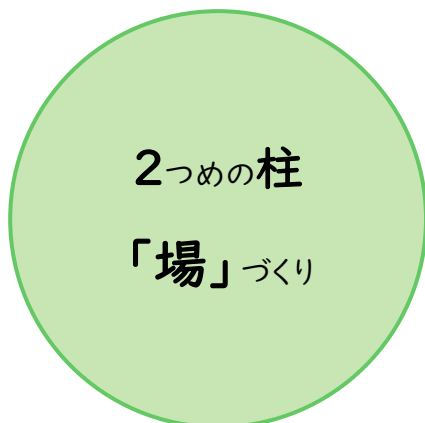
柱



施策1-①
知るから始まる人づくり

施策1-②
地域福祉を担う人財づくり

施策1-③
地域組織・市民団体への活動支援



施策2-①
孤立を防ぐ場づくり

施策2-②
生きる力を育む場づくり

施策2-③
人の交流・つながる場づくり



施策3-①
身近な相談窓口の充実

施策3-②
困りごとに対応する体制づくり

施策3-③
災害時など緊急時の助け合いの体制づくり

施策